

科目名	日本文学史（近現代）					単位	2.0
担当教員	権田 浩美						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	4403

●授業のテーマ

日本近代文学の変遷—明治期から敗戦まで—

●到達目標

日本近代文学の歴史と変遷について、時代的・文化的な背景も含め、その流れを理解出来るようになる。問題意識を持ちながら、主要な散文・韻文の作品を講読することで、自身の関心や知識を拡げつつ深めることができる。

●学習内容(授業概要)

日本の〈近代〉という時代は、それ以前とは異なるかたちで始まっている。西洋諸国の外圧ともいえる状況下、文明開化が叫ばれる中で、性急な〈近代〉化が迫られたが、その内実は実質上の〈西洋〉化であったからだ。むろん、そうした歪なかたちで〈近代〉化を迫られたことから様々な問題も発生したが、一方では、時間が経つにつれて、同時期に西洋でブームとなっていたジャポニズムを内包する新興芸術の〈逆輸入〉的な移入によって、日本文化が見直される等の動きもあり、独自の、また複雑かつ多義的な文学作品をも生み出すことにもつながった。明治期から15年戦争敗戦に至るまでの、日本近代文学の流れを追うとともに、そこに見られる日本の〈近代〉の意識・思想の変遷について学び、私たちの在る今日につながるものを見出してゆく。

●学習内容(授業計画)

《前期》

1. 授業のガイダンス
2. 日本近代文学の目覚め—自我の目覚めと言文一致について—
3. 日本近代詩の目覚め—新体詩の出現と『文学界』周辺—
4. 雑誌『明星』の周辺
5. 耽美主義—〈性〉と官能の描写—
6. 自然主義—〈私小説〉の系譜—
7. 大正生命主義の諸相
8. 口語自由詩の確立と〈民衆〉
9. 関東大震災と新興芸術の移入
10. 新しい感性の時代（その1）—モダニズムとプロレタリア文学—
11. 新しい感性の時代（その2）—モダニズムとプロレタリア文学—
12. 戦間期の文学
13. 戦争と文学（その1）
14. 戦争と文学（その2）
15. まとめ

* 授業の進度により、内容や順番を変えることもあるので、予め了承されたい。

●準備学習・事後学習の内容

事前に指定された作品（テキストあるいは配布資料）を必ず精読して、授業に臨むこと。
適宜出される小レポートや感想等の課題に真摯に取り組み、指定された期日を守って提出すること。

授業後は、問題点などをまとめておくこと。

●成績評価方法・基準

出席状況や、受講態度（小レポートや感想等課題への取り組みや提出状況を含む）—50%
学期末の試験—50%

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：近代の文章、著者名：分銅惇作他、出版社：筑摩書房、販売先：(株)Do

●参考文献／その他

必携の『近代の文章』に収められていない、韻文などのテキストについては、プリントを作成して配布する。

●履修上の注意

授業前に指定された作品を必ず精読して臨み、課題については期日を守って必ず提出すること。